

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 10 月 22 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	26.6	3.4 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	33.4	7.09 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	32.0	0.19 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (10/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	21.3 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	20.4 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	19.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドへの注水を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	3号機タービン建屋	10/11 10:46 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/11 10:05 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/22 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
 - 10/16～ 2号機開削ダクトについて、間詰め充填工事を開始。
 - 10/20～ 2号機立坑Aについて、間詰め充填工事を開始。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
 - 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
 - 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/8/29 12:45 頃 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材(鉄板高さ30cm程度)と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。

なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

<使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:10/22)>

- セシウム 134: 2.2×10^2 Bq/cm³
 - セシウム 137: 7.0×10^2 Bq/cm³
 - コバルト 60 : 9.9×10^{-1} Bq/cm³
- H26/10/17 11:30 頃 西門可搬型モニタリングポストによる測定が停止していることを当社社員が確認。このため、11:30および12:00の測定が欠測。その後、12:30より代替サーベイによる測定を実施し、欠測前の値と比較して有意な変化はない。
 - H26/10/21 原因を調査したところ、データケーブルのジョイント部が外れている箇所を特定。当該箇所の再接続と、外れ防止対策を施した上で、14:00のデータから可搬型モニタリングポストによる測定を再開し、代替サーベイの測定値と比較し異常がなかったことから、同日18:00のデータから可搬型モニタリングポストによる測定値に戻した。
 - H26/10/21 14:38 構内Gエリア吸着塔一時保管施設において、吸着塔運搬用トレーラーから油が漏えいしていることを、協力企業作業員が発見。14:50に一般回線で双葉消防本部へ連絡。その後、当社社員2名(自衛消防隊員)が現場を確認したところ、油が道路に約20mにわたって滴下していたことが分かった。漏れた油は、トレーラーのパワーステアリング用のオイルで、現在エンジンを停止させた状態にあり、油の滴下は止まっている。また、滴下した油については吸着材による拭き取りを終了。富岡消防署により、同日16:00に「トレーラー駆動系の油漏れ」と判断された。
 - 1号機については、使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、原子炉建屋5階に堆積した瓦礫の撤去作業を進めるため、原子炉建屋カバー(以下、「建屋カバー」という。)の解体を行う。建屋カバーを解体しても、1～3号機からの放射性物質の放出による敷地境界線量(0.03mSv/年)への影響は少ないものと評価している。建屋カバー解体作業は、飛散防止剤散布やガレキ吸引・ダスト吸引等の放射性物質の飛散抑制対策を十分に実施するとともに、ダストモニタおよびモニタリングポストにてダスト濃度等の監視を行いながら着実に進めていく。

H26/10/22 7:08 飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を開始。作業にあたっては、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等の監視を十分に行いながら着実に作業を進める。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。(No.11は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15より停止中)
- 1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日10/14]は同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

なお、地下水観測孔 No.1-6 および近傍の No.1-14、No.1-16 については、10/16 の分析結果において、Cs-134 および全 β に上昇が確認されたため、それ以降監視強化を続けていたが、緩やかではあるが低下傾向を示しているため、10/23 より通常の監視状態とする。

【1～4号機サブドレンの状況】

- ・10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12 より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット 28 箇所を加え、計 42 箇所（実際はトリチウム濃度の高い No.1, N14 を除く 40 箇所）について、系統運転試験 (STEP3-2) のための地下水のくみ上げを開始。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上